別紙様式４

平成 22 年度サバティカル研究者（　B：若手　）研究成果報告書

平成　22年　10月　1日

福岡教育大学長　　殿

所属講座　教育心理学講座
職　　名　教授
氏　　名　坂中　正義

受入大学・学部等名

九州大学　人間環境学研究院

受入教員の職・氏名

教授・野島一彦

研究期間

平成　22　年　4 月　1 日　～　平成　22　年　9 月　30 日

研究題目

ベーシック・エンカウンター・グループにおけるファシリテーターの態度条件について

研究成果概要（８００字程度又は別紙添付）

別紙添付

研究成果概要

筆者は、これまでベーシック・エンカウンター・グループ（以下、BEG）におけるファシリテーター（以下、fac.）の促進的態度について、C.R.Rogersの提唱した「建設的人格変容に必要かつ十分な条件」の中核3条件の観点から研究をすすめ、相当数の事例とデータを蓄積してきた。

このサヴァティカル研究期間中も、さらにデータを収集すると共に、これまで行ってきた実践や研究を再検討し、蓄積されたデータを詳細に分析することで、fac.の成長促進的態度条件に関わる多くの知見を得た。総括すると次の5点にまとめることができる。

第1点目は「理論と実証を結びつけることを念頭に置き、調査対象者への負担を最小限に押さえた中核3条件測定スケール（PCA3-EG）を作成し、BEG30グループ、計247名におよぶメンバーに調査を実施したこと」である。このスケールより、BEG以外にも個人カウンセリングをはじめ、親子関係、教師-生徒関係等、成長促進的な人間関係の質の解明に活用できるであろう。特に個人カウンセリングや教師-生徒関係に関わるデータは、既に収集しはじめている。

第2点目は「fac.とメンバーの態度はセッションを重ねるに従って、一層、中核3条件を示すように変化していた」ことである。これは、BEGはメンバーの中核3条件的な態度を育成しており、教師も含む対人援助職養成トレーニングにおけるBEGの活用可能性は大きい。

第3点目は「fac.からの中核3条件は、メンバーの安心感や場の安全感のベースとなり、BEGの土台づくりを中心に関わっており、メンバーからの中核3条件は、BEGの土台づくりに寄与しつつも、その上でのメンバー間の自発的・創造的な相互作用を活性化し、自己理解や他者理解につながる成長促進的なコミュニケーションに関わっている」ことである。同じ中核3条件でもfac.とメンバーのそれでは機能が異なることが示されたことは、必要十分条件研究において画期的なことである。

第4点目は「BEGにおける建設的人格変化の必要条件を再定式化した」ことである。これにより、BEGにおいても中核3条件の実証研究が一層すすむだけでなく、個人カウンセリングや他の領域での中核3条件の実証研究を触発するであろう。

第5点目は「BEGの初期、ないし前半のセッションの重要性を実証データとして示した」ことである。今回得られた多くの結果はBEGの初期、ないし前半のセッションでの中核3条件の重要性を示していた。それは、メンバーの安心感や場の安全感のベースとなるからである。この保障のため、fac.自身の中核3条件の質を高め、それにもとづいた関わりを大切にしながらも、メンバーの他者援助プロセスを促進する工夫が重要になろう。

以上、5点の知見を中心にサバティカル期間中の研究成果をまとめ、博士論文提出にむけて鋭意努力中である。